

# 論 說 報 告

土木學會誌 第十五卷第十號 昭和四年十月

## 楕圓函數による捩角塼の研究

會員 工學士 久野重一郎

Torsional Stress in Some Twisted Prisms  
Solved by the Elliptic Functions

By Jiuichiro Kuno, C.E., Member.

### 内 容 梗 概

本文は、矩形塼及三角塼が捩れし場合の應力を、楕圓函數によつて、解いたものである。

### 目 次

|          |    |
|----------|----|
| 第一章 一般理論 | 1  |
| 第二章 矩形塼  | 6  |
| 第三章 三角塼  | 15 |

1. 直角二等邊三角形の横斷面を有する直塼, 2. 60 度角を有する直角三角形を横斷面とする直塼, 3. 正三角形の横斷面を有する直塼

### 第 一 章 一 般 理 論

#### 1. 捩應力及周の條件

等方性角塼の一端が固定, 他端へ根力率作用し, 塼單位長につき角  $\gamma$  捩れしとす。固定横斷面を  $x, y$  坐標面にとり, 直交 3 坐標軸に平行な分變位を

$$u_1 = -\gamma yz, \quad u_2 = \gamma xz, \quad u_3 = \gamma \varphi(x, y)$$

と假定すれば

$$\sigma_x = \sigma_y = \sigma_z = \tau_z = 0,$$

$$\tau_x = G\gamma \left( \frac{\partial \varphi}{\partial y} + x \right), \quad \tau_y = G\gamma \left( \frac{\partial \varphi}{\partial x} - y \right),$$

$$\frac{\partial^2 \varphi}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \varphi}{\partial y^2} = 0.$$

應力状態は横断面の位置に關しない、よつて  $z$  方向は、以後考へず、文字  $z$  は他に使用する。

$\varphi(x, y)$  と共軛な函数  $\psi(x, y)$  をとれば、断面の内部に於て、

$$\frac{\partial^2 \psi}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \psi}{\partial y^2} = 0 \quad (\text{内部の條件}),$$

断面の周に於て ( $C$  は常數)

$$\psi - \frac{1}{2}(x^2 + y^2) = C \quad (\text{周の條件と}).$$

$\varphi$  と  $\psi$  は、Cauchy-Riemann 方程式を介して結ばれる。いま  $(\varphi + i\psi)$  を複平面上にとり、更に  $z = x + iy$ ,  $w = s + it$  を考へて、

$$p + iq = \frac{d(\varphi + i\psi)}{dz}, \quad w = \frac{d(p + iq)}{dz}$$

とすれば、

$$\tau_x = G\gamma(x - q), \quad \tau_y = G\gamma(p - y).$$

横断面の第  $r$  邊 (番號は、正方向即ち面分を左手に見てすゝむ) の微長を  $dL$  とし、周の條件を  $L$  にて 2 度微分すれば、

$$\frac{d^2 \psi}{dL^2} = 1.$$

然るに

$$\begin{aligned} \frac{d^2 \psi}{dL^2} &= \frac{\partial^2 \psi}{\partial x^2} \left( \frac{dx}{dL} \right)^2 + 2 \frac{\partial^2 \psi}{\partial x \partial y} \frac{dx}{dL} \frac{dy}{dL} + \frac{\partial^2 \psi}{\partial y^2} \left( \frac{dy}{dL} \right)^2 \\ &\quad + \frac{\partial \psi}{\partial x} \frac{d^2 x}{dL^2} + \frac{\partial \psi}{\partial y} \frac{d^2 y}{dL^2} \end{aligned}$$

該邊が  $x$  軸となす角を  $\theta_r$  (正實軸の上側より正方向に廻り第  $r$  邊の外側に及ぶ、即ち測角路は多角形外部に描く) とすれば、

$$\frac{dx}{dL} = \cos \theta_r, \quad \frac{dy}{dL} = \sin \theta_r, \quad \frac{d^2 x}{dL^2} = \frac{d^2 y}{dL^2} = 0.$$

よつて、周の條件は、

$$S \sin 2\theta_r + t \cos 2\theta_r = 1.$$

本直線は、 $w$  原點を中心とする單位圓に接し、實軸  $S$  に對し  $(-2\theta_r)$  傾く。断面の 1 邊毎に、 $w$  直線 1 本對應し、 $n$  邊  $z$  多角形 (断面多角形) に對して、 $n$  邊  $w$  多角形 (條件多角形) 成立す。 $z$  第  $r$  頂點の内角は (該頂點を中心として正方向に測角す)

$$\alpha_r \pi = \pi + \theta_r - \theta_{r+1},$$

これに対応する  $w$  第  $r$  頂點の内角は

$$\alpha'_r \pi = (1 + 2m_r - 2\alpha_r) \pi,$$

$m$  は正の整数 (零を含む) である。 $w$  邊が,  $z$  邊の 2 倍づゝ廻轉する結果として,  $w$  圖形の表示は, 一般に, 2 葉若しくはそれ以上の Riemann 面を必要とす。

## 2. 等角寫像

$z$  圖形の第  $n$  頂點を原點に, 第  $n$  邊 (第  $n-1$  頂點より第  $n$  頂點に至る) を實軸にとれば,

$$\theta_n = 2\pi.$$

こゝに於て Schwarz の變換

$$z = C \int_{\infty}^{\xi} \frac{d\xi}{\prod (\xi - \xi_r)^{1 - \alpha_r}}$$

( $\xi_1 < \xi_2 < \dots < \xi_{n-1}$ , 連乘は  $r=1$  より  $n-1$  まで)

は, 多角形内部を  $\xi$  上半面へ等角寫像し,  $z$  周を  $\xi$  實軸へ ( $z$  第  $r$  頂點を實値  $\xi_r$  へ),  $z$  原點を  $\xi$  無限大へ對應せしめる。

次に  $z$  周邊の寫像上へ, 條件多角形の對應邊を, 順序正しく重ねあはせるため, Schwarz 變換式を少しく變形し,

$$w = \int \frac{C_1 F(\xi) d\xi}{\prod (\xi - \xi_r)^{2\alpha_r - 2m_r}} + C_2,$$

(連乘は  $r=1$  より  $n-1$  まで)

につきて寫像性を吟味す。 $F(\xi)$  は  $\xi$  の有理整函數であつて,  $w$  圖形が Riemann 面上に存することに備へるため, 假りに添へたものである。

いま,  $z$  第  $h$  邊の寫像 ( $\xi_{h-1} \sim \xi_h$ ) 上へ  $w$  第  $h$  邊を重ねあはせ得たとし,  $\xi$  をその上へに考へれば  $r=h \sim (n-1)$  については

$$(\xi - \xi_r)^{2\alpha_r} = \{|\xi - \xi_r| e^{mi}\}^{2\alpha_r}$$

これら因子中の  $e$  以外の部分及  $m$  を指數とするものを綜合して  $R$  (實函數) と置けば,  $w$  式の分母は

$$\prod_{r=h}^{n-1} (\xi - \xi_r)^{2\alpha_r - 2m_r} = R \prod_{r=h}^{n-1} e^{2\pi i \alpha_r}$$

然るに  $z$  第  $r$  頂點では

$$\pi - \pi \alpha_r = \theta_{r+1} - \theta_r,$$

$r=h \sim n$  に対するこの關係式を邊々加へれば

$$\begin{aligned} (n-h)\pi - \sum_{r=h}^{n-1} \pi \alpha_r &= \theta_n - \theta_h \\ &= 2\pi - \theta_h, \end{aligned}$$

よつて

$$\prod_{r=h}^{n-1} e^{2\pi i \alpha_r} = e^{2i\theta_h}.$$

故に  $w$  式は

$$\frac{dw}{d\xi} \cdot e^{2i\theta_h} = \frac{F(\xi)}{R} \dots \dots \dots (a)$$

一方に於て、 $w$  第  $h$  邊そのものは、

$$S \sin 2\theta_h + t \cos 2\theta_h = 1,$$

$J$  をもつて虚部を意味するものとせば、上式は

$$J \{ w e^{2i\theta_h} \} = i,$$

従て

$$J \left\{ \frac{dw}{d\xi} e^{2i\theta_h} \right\} = 0.$$

(a) がこれに牴觸しないならば、 $w$  式は目的の寫像を遂行す。そのためには、(a) に於て  $F(\xi)$  が實係数の函数でなければならぬ。よつて、簡單のため、指數  $m$  を有する實係数の部分を、これに併合すれば、

$$w = C_1 \int F(\xi) \prod_{r=1}^{n-1} (\xi - \xi_r)^{-\alpha_r} d\xi + C_2,$$

$F(\xi)$  は、依然、 $\xi$  の有理整函数であつて、いま、 $N$  次とす。

次に振應力による、塙單位長の Strain energy は、

$$E = \frac{1}{2G} \int \int (\tau_x^2 + \tau_y^2) dx dy = \frac{1}{2} G \gamma^2 \{ (y-p)^2 + (x-q)^2 \} dx dy$$

この値、及その一部  $\iint (p^2 + q^2) dx dy$  は、ともに、常に有限の筈である、よつて  $(p+iq)$  は、 $z$  及  $\xi$  面分上に極をもち得ない。しかして

$$\begin{aligned} p+iq &= \int w dz + C = \int w \frac{dz}{d\xi} d\xi + C \\ &= C' \int \int \xi^N \prod_{r=1}^{n-1} (\xi - \xi_r)^{-\alpha_r - 1} d\xi d\xi + \dots \dots \dots \end{aligned}$$

いま第  $n$  邊上にある動點  $z$  が、第  $n$  頂點へ限りなく接近せし場合を考へれば、

$$\prod_{r=1}^{n-1} (\xi - \xi_r)^{\alpha_r+1} \sim \prod_{r=1}^{n-1} \xi^{\alpha_r+1} = \xi^m,$$

$$m = \sum_{r=1}^{n-1} (\alpha_r + 1) = 2n - 3 - \alpha_n,$$

故に

$$p + iq \sim C'' \xi^{N-2n+5+\alpha_n} + \dots$$

これが、 $z$  原点に於て、有限であるためには、

$$N - 2n + 5 + \alpha_n < 0.$$

よつて、第  $n$  頂點の張る内角が、 $\pi$  を越えない場合には、

$$N \equiv 2n - 6,$$

該内角が  $\pi$  を越える場合には、

$$N \equiv 2n - 7.$$

適當に  $z$  原点を選べば、前者を以て一般を覆ひ得。

捩力をうる角嚙の問題は、こゝに至つて、次の如く解決す。

$$\left. \begin{aligned} z &= C_1 \int_{\infty}^{\xi} \prod_{r=1}^{n-1} (\xi - \xi_r)^{\alpha_r-1} d\xi, \\ w &= C_2 \int_{\infty}^{\xi} F(\xi) \prod_{r=1}^{n-1} (\xi - \xi_r)^{-2\alpha_r} d\xi + C_3, \\ F(\xi) &= c_0 + c_1 \xi + c_2 \xi^2 + \dots + c_{2n-6} \xi^{2n-6} \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (1)$$

$$\left. \begin{aligned} p + iq &= \int w dz + C_4, \\ \tau_x &= G\gamma(x-q), \quad \tau_y = G\gamma(p-y). \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (2)$$

問題を解くには、まづ (1) の 2 積分を遂行し、常数を問題に合ふやうに決定する、次に  $z$  式と  $w$  式から、 $\xi$  を消去し、 $w$  を  $z$  の函數として (2) の第 1 式へ入れる、そして積分を行ひ、 $p+iq$  を求める、その虚實を分離して (2) の後式へ代入すれば、直に應力が得られる。全行程がすべて機械的である。

(2) は如何なる場合にも變りないが、(1) は  $z, \xi$  の對應如何によつて、内容の變るべき性質のものである。もし嚙横断面の邊上の 1 點を  $z$  原点に選び、それを  $\xi$  無限大へ對應せしめた場合には (原点のある邊を  $z$  實軸にとることは前に同じとす)、(1) に換へるに、次の (3) を以てせねばならぬ、證明は前と同様にされる。もしまた、 $z$  原点を  $\xi$  原点へ寫像した場合には、積分下限を零に置く。

$$z = C_1 \int_{\infty}^{\xi} \prod_{r=1}^{n-1} (\xi - \xi_r)^{\alpha_r-1} d\xi + C,$$

$$w = C_2 \int_{\infty}^{\xi} F(\xi) \prod_{r=1}^n (\xi - \xi_r)^{-2\alpha_r} d\xi + C_3, \quad \dots\dots\dots (3)$$

$$F(\xi) = c_0 + c_1 \xi + c_2 \xi^2 + \dots\dots\dots + c_{2n-3} \xi^{2n-3}.$$

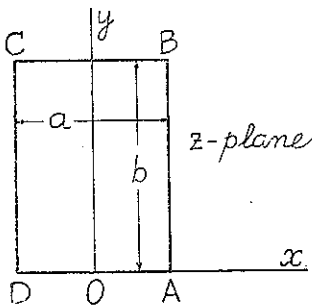
第二章 矩形場

1. 矩形断面を半平面へ寫像

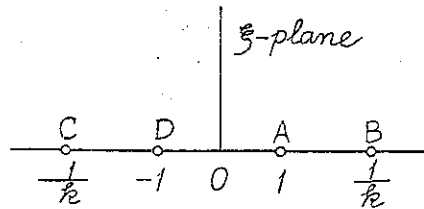
矩形 ABCD を横断面とする直溝が、換力率をうけて換れし場合を考へる。短邊 DA (長さ a) の方向を、數平面 z の實軸にとり、DA の中點を z 原點に選び、矩形は虚軸の正側に置く (第一圖)。長邊の長さを b, 邊比を  $\mu$  とす。

$$\mu = \frac{b}{a}, \quad 1 \leq \mu < \infty.$$

第一圖



第二圖



z 断面の周を  $\xi$  實軸へ、またその内部を  $\xi$  上半面へ等角寫像するにあたり、k を Jacobi 楕圓函数の母數とし、點對應を

|          |    |   |                  |   |                       |   |                        |   |                   |
|----------|----|---|------------------|---|-----------------------|---|------------------------|---|-------------------|
| z 平面     | 原點 | A | $(\frac{1}{2}a)$ | B | $(\frac{1}{2}a + ib)$ | C | $(-\frac{1}{2}a + ib)$ | D | $(-\frac{1}{2}a)$ |
| $\xi$ 平面 | 原點 | A | (1)              | B | (1/k)                 | C | (-1/k)                 | D | (-1)              |

と定めれば (第二圖), 前章 (3) に於て  $C=0$ 。この場合, z 内角については,

$$\alpha_1 = \alpha_2 = \alpha_3 = \alpha_4 = \frac{1}{2}.$$

故に前章 (3) の第 1 式は,

$$z = C_1 k \int_0^{\xi} \{(1 - \xi^2)(1 - k^2 \xi^2)\}^{-\frac{1}{2}} d\xi,$$

従て

$$\xi = \operatorname{sn} \left( \frac{z}{C_1 k} \right).$$

こゝに  $\operatorname{sn}$  は Jacobi の楕圓函数であつて、基本週期  $4K$ ,  $2iK'$  を有す。常数を決定するため、まづ  $A$  點の對應を考へれば、

$$\frac{1}{2} \frac{a}{C_1 k} = K,$$

故に

$$\frac{1}{C_1 k} = \frac{2K}{a},$$

よつて

$$\xi = \operatorname{sn} \frac{2Kz}{a} \dots \dots \dots (1)$$

次に  $B$  點の對應を考へれば、

$$\frac{2K}{a} \left( \frac{1}{2} a + ib \right) = K + iK',$$

故に

$$\frac{K'}{K} = 2\mu \dots \dots \dots (2)$$

よつて Jacobi の常数は、(前章 (2) の  $q$  とは別物である)

$$q = e^{-2\mu\pi} \dots \dots \dots (3)$$

種々の  $\mu$  に對して  $q$  を計算すれば、第一表の如くである。

第一表 A

| $\mu$ | $q$           | $q^2$                  | $q^3$                |
|-------|---------------|------------------------|----------------------|
| 1.0   | 0.00186 74427 | 0.0 <sup>5</sup> 3487  | 0.0 <sup>8</sup> 65  |
| 1.5   | 0.00008 06995 | 0.0 <sup>8</sup> 6512  | 0.0 <sup>12</sup> 53 |
| 2.0   | 0.00000 34873 | 0.0 <sup>10</sup> 1216 | 0.0 <sup>16</sup> 42 |
| 2.5   | 0.00000 01507 | 0.0 <sup>13</sup> 2271 | 0.0 <sup>20</sup> 34 |
| 3.0   | 0.00000 00065 | 0.0 <sup>16</sup> 4241 | 0.0 <sup>24</sup> 28 |

第一表 B

| $\mu$ | $q$     | $\mu$ | $q$     |
|-------|---------|-------|---------|
| 1.0   | 0.00187 | 1.5   | 0.00008 |
| 1.1   | 0.0:099 | 1.6   | 0.00004 |
| 1.2   | 0.00053 | 1.7   | 0.00002 |

|     |         |     |         |
|-----|---------|-----|---------|
| 1.3 | 0.00028 | 1.8 | 0.00001 |
| 1.4 | 0.00015 | 1.9 | 0.00000 |

小數第 4 位まで有効數字を必要とする程度の計算に於ては、 $q$  の 2 乗及それ以上を完全に閉却し得ることがわかる。また大約  $\mu > 2$  に對しては  $q$  を省略しても、小數第 4 位へその影響が及ばない。故に正方形に極めて近い場合に 0.5% 以下の誤差あるべきを覺悟すれば、 $q$  をも常に省略することが出来る。

いま  $K$  と  $k$  を、まづ Theta 函数 (Jacobi の Small Theta-function の意、以下同様) にて表はし、然る後無限總和形に展開して、上の省略を行へば、

$$\left. \begin{aligned} K &= \frac{\pi}{2} (1 + 4q), \\ k &= 4q^{1/4} (1 - 4q). \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (4)$$

これより

$$\left. \begin{aligned} K' &= 2\mu K, \\ k' &= \sqrt{1 - k^2}. \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (5)$$

### 2. 條件多角形の半平面寫像

楕圓断面の矩形へ對應する條件多角形の 4 邊は、

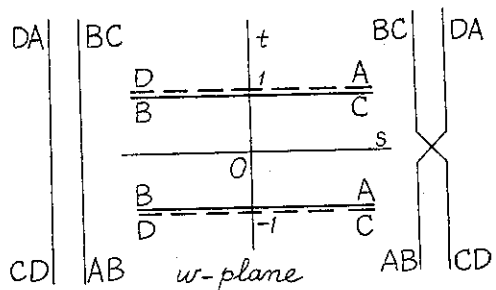
|    |              |          |
|----|--------------|----------|
| 邊  | $-2\theta_r$ | 邊の方程式    |
| AB | $-\pi$       | $t = -1$ |
| BC | $-2\pi$      | $t = 1$  |
| CD | $-3\pi$      | $t = -1$ |
| DA | $-4\pi$      | $t = 1$  |

故に  $w$  多角形は、實軸を中心として 2 なる幅を有する無限帶狀域となり、2 葉の Riemann 面上に表示せらる (第三圖)。この内部を  $\xi$  上半面 (第二圖) へ等角寫像する函数は、前章 (3) にもとづき

$$w = C_2 \int_0^\xi \frac{F(\xi) d\xi}{(\xi^2 - 1)(\xi^2 - k^{-2})} + C_3,$$

$$F(\xi) = c_0 + c_1\xi + c_2\xi^2 + c_3\xi^3.$$

第三圖



被積分函数を部分分數に分割し、然る後積分を行へば、次式を得。

$$w = C_3 - \frac{1}{2} C_2 \left( \frac{k}{k'} \right)^2 \left[ c_1 \log \frac{\xi^2 - 1}{\xi^2 - k^{-2}} + (c_0 + c_2) \log \frac{\xi - 1}{\xi + 1} \right]$$



$$\begin{aligned}
 &+(c_0k + c_2k^{-1}) \log \frac{\xi + k^{-1}}{\xi - k^{-1}} \\
 &+ c_3 \{ \log (\xi^2 - 1) - k^{-2} \log (\xi^2 - k^{-2}) \} \Big].
 \end{aligned}$$

こゝに  $\log$  は、函数論上の對數函数を意味す、 $\xi$  の變域が上半面に限られ居るから、 $\log$  は、無限多價の性質は發揮しない。而して  $\xi$  が實軸上を動くとき、 $w$  圖形の條件として、

$$\left. \begin{array}{l} \xi < -1/k \\ -1 < \xi < 1 \\ 1/k < \xi \end{array} \right\} \text{に對し} \quad w = s + i,$$

$$\left. \begin{array}{l} -1/k < \xi < -1 \\ 1 < \xi < 1/k \end{array} \right\} \text{に對し} \quad w = s - i$$

なるを要す。よつて常數を次の如く定めれば、目的に合す。

$$\begin{aligned}
 C_2 &= \frac{4}{\pi}, & C_3 &= i, \\
 c_0 &= 0, & c_1 &= \left(\frac{k'}{k}\right)^2, \\
 c_2 &= 0, & c_3 &= 0.
 \end{aligned}$$

従て

$$w = i - \frac{2}{\pi} \log \frac{1 - \xi^2}{k^{-2} - \xi^2} \dots\dots\dots (6)$$

これによつて、 $w$  帯域は、 $\xi$  上半面へ一對一、等角的、連續的に寫像せられる。

### 3. 應 力 式

運算を遂行するに當り、前節の値を Weierstrass 系の楕圓函数に變換す。まづ點對應を

|               |                |       |       |               |
|---------------|----------------|-------|-------|---------------|
| Jacobi 系      | $-\frac{1}{k}$ | -1    | 1     | $\frac{1}{k}$ |
| Weierstrass 系 | $\infty$       | $e_3$ | $e_2$ | $e_1$         |

に變へ、且つ新函数の基本週期を

$$2\omega_1 = 2K, \quad 2\omega_3 = 2iK'$$

に定めて、その比を

$$\frac{\omega_3}{\omega_1} = \frac{iK'}{K} = i2\mu$$

に保てば,

$$\omega_1 \sqrt{e_1 - e_3} = K$$

より

$$\sqrt{e_1 - e_3} = 1.$$

次に個々の  $e$  及び函数の常数を計算するにあたり,  $q$  に関する省略を行へば,

$$\begin{aligned} e_1 &= -\frac{\eta_1}{\omega_1} + \left(\frac{\pi}{\omega_1}\right)^2 \left\{ \frac{1}{4} + 2 \sum_{n=1}^{\infty} q^{2n} (1+q^{2n})^{-2} \right\} \\ &= -\frac{2}{3} (1-8q), \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} e_2 &= -\frac{\eta_1}{\omega_1} + 2 \left(\frac{\pi}{\omega_1}\right)^2 \sum_{n=1}^{\infty} \{q^{2n-1} (1+q^{2n-1})^{-2}\} \\ &= -\frac{1}{3} (1-32q), \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} e_3 &= -\frac{\eta_1}{\omega_1} - 2 \left(\frac{\pi}{\omega_1}\right)^2 \sum_{n=1}^{\infty} \{q^{2n-1} (1+q^{2n-1})^2\} \\ &= -\frac{1}{3} (1+16q), \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \eta_1 &= \frac{\pi^2}{\omega_1} \left\{ \frac{1}{12} - 2 \sum_{n=1}^{\infty} n q^{2n} (1-q^{2n})^{-1} \right\} \\ &= \frac{1}{6} \pi (1-4q). \end{aligned}$$

これらの  $e$  は, その基本的条件

$$e_1 + e_2 + e_3 = 0$$

に背かない。また  $\eta$  の残りのものは, Legendre の関係式

$$\eta_1 \omega_3 - \eta_3 \omega_1 = \frac{1}{2} \pi i,$$

$$\eta_3 \omega_2 - \eta_2 \omega_3 = \frac{1}{2} \pi i$$

より

$$\eta_2 = -(1-4q) \left( \frac{1}{6} \pi + \frac{1}{3} \mu \pi i - i \right),$$

$$\eta_3 = i (1-4q) \left( \frac{1}{3} \mu \pi - 1 \right).$$

更に Weierstrass の常數  $g$  については

$$g_2 = \left(\frac{\pi}{\omega_1}\right)^4 \left\{ \frac{1}{12} + 20 \sum_{n=1}^{\infty} n^3 q^{2n} (1 - q^{2n})^{-1} \right\}$$

$$= \frac{4}{3} (1 - 16q),$$

$$g_3 = \left(\frac{\pi}{\omega_1}\right)^6 \left\{ \frac{1}{216} - \frac{7}{3} \sum_{n=1}^{\infty} n^5 q^{2n} (1 - q^{2n})^{-1} \right\}$$

$$= \frac{8}{27} (1 - 24q).$$

尚これらの値に誤なきや否やを検するため、別の方面より計算を行へば、(式中の  $\theta$  は Theta 函数を表はす)

$$e_1 = \frac{1}{3} \left(\frac{\pi}{2\omega_1}\right)^2 [\theta_3^4(0) + \theta_0^4(0)] = \frac{2}{3} (1 - 8q),$$

$$e_2 = \frac{1}{3} \left(\frac{\pi}{2\omega_1}\right)^2 [\theta_2^4(0) - \theta_0^4(0)] = -\frac{1}{3} (1 - 32q),$$

$$e_3 = -\frac{1}{3} \left(\frac{\pi}{2\omega_1}\right)^2 [\theta_2^4(0) + \theta_3^4(0)] = -\frac{1}{3} (1 + 16q),$$

$$g_2 = 2(e_1^2 + e_2^2 + e_3^2) = \frac{4}{3} (1 - 16q),$$

$$g_3 = 4e_1 e_2 e_3 = \frac{8}{27} (1 - 24q).$$

いづれも先きの値に一致す。

さて問題に戻り、 $z$  矩形の寫像上へ、 $w$  帯域を重ねた場合、(1) と (6) より  $\xi$  を消去すれば、

$$\left. \begin{aligned} w &= i - \frac{4}{\pi} \log(k \operatorname{cd} u), \\ u &= 2Kz/a \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (7)$$

こゝに  $\operatorname{cd} u$  は Glaisher の記法による Jacobi 函数の一つである。Weierstrass の  $\sigma$  函数を用ひて、これを書直せば、

$$\sqrt{e_1 - e_3} = 1$$

なるを以て

$$\operatorname{cd} u = \frac{\sigma_1 u}{\sigma_2 u} = e^{(7_1 - 7_2)u} \frac{\sigma \omega_2}{\sigma \omega_1} \frac{\sigma(u - \omega_1)}{\sigma(u - \omega_2)}$$

然るに

$$\begin{aligned}\sigma\omega_1 &= \frac{2\omega_1}{\pi} e^{\eta_1\omega_1/2} \prod_{n=1}^{\infty} (1+q^{2n})^2(1-q^{2n})^{-2} \\ &= \frac{2K}{\pi} e^{\eta_1\omega_1/2}, \\ \sigma\omega_2 &= -\sqrt{-i} \frac{\omega_1}{\pi} e^{\eta_2\omega_2/2} q^{-1/4} \prod_{n=1}^{\infty} (1+q^{2n-1})^2(1-q^{2n})^{-2} \\ &= \frac{K}{\pi} e^{5\pi i/4} e^{\eta_2\omega_2/2} (1+q) q^{-1/4}.\end{aligned}$$

故に (7) は

$$w = A_1 + A_2 u + \frac{4}{\pi} \log \frac{\sigma u_2}{\sigma u_1} \dots \dots \dots (8)$$

但し

$$\begin{aligned}A_1 &= i - \frac{4}{\pi} \log k \frac{\sigma\omega_2}{\sigma\omega_1} \\ &= \frac{4}{\pi} \log 2 - \frac{2}{3} \mu\pi (\mu - i) - 2\mu - 3i,\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}A_2 &= -\frac{4}{\pi} (\eta_1 - \eta_2) \\ &= -\frac{4}{3} (1-4q) \left(1 + \mu i - \frac{1}{\pi} 3i\right),\end{aligned}$$

$$u_1 = u - \omega_1 = \frac{2Kz}{a} - K,$$

$$u_2 = u - \omega_2 = \frac{2Kz}{a} + K + iK'.$$

而して

$$du = du_1 = du_2 = \frac{2K}{a} dz,$$

故に

$$dz = \frac{a}{2K} du = \frac{a}{2K} du_1 = \frac{a}{2K} du_2.$$

よつて  $w$  を  $z$  につきて積分すれば,

$$\begin{aligned}
 p+iq &= \int w dz + C_4 \\
 &= A_1 \int dz + \frac{a}{2K} A_2 \int u du \\
 &\quad + \frac{4}{\pi} \frac{a}{2K} \left[ \int \log \sigma u_2 du_2 - \int \log \sigma u_1 du_1 \right] + C_4 \dots \dots \dots (9)
 \end{aligned}$$

上式左邊の  $q$  は、第一章 (2) に示すものであつて、Jacobi の常數ではない。しかして

$$\begin{aligned}
 \log \sigma v &= \log v + \int_0^v \left\{ \zeta v - \frac{1}{v} \right\} dv \\
 &= \log v - \frac{1}{240} g_2 v^4 - \frac{1}{840} g_3 v^6 - \frac{1}{67200} g_2^2 v^8 \\
 &\quad - \frac{1}{184800} g_2 g_3 v^{10} - \dots \dots
 \end{aligned}$$

いま

$$\begin{aligned}
 F(v) &= \int_0^v \log \sigma v dv \\
 &= v \log v - v - \frac{1}{1200} g_2 v^5 - \frac{1}{5880} g_3 v^7 \\
 &\quad - \frac{1}{604800} g_2^2 v^9 - \frac{1}{2032800} g_2 g_3 v^{11} - \dots \dots
 \end{aligned}$$

と置く。(9) の積分限界は 0 より  $z$  に至る、然るに  $z=0$  は

$$u=0, \quad u_1=-K, \quad u_2=K+iK'$$

に對應するを以て、

$$\begin{aligned}
 \int_0^z \log \sigma u_1 dz &= \frac{a}{2K} \int_{-K}^{u_1} \log \sigma u_1 du_1 \\
 &= \frac{a}{2K} [F(u_1) - F(-K)], \\
 \int_0^z \log \sigma u_2 dz &= \frac{a}{2K} [F(u_2) - F(K+iK')].
 \end{aligned}$$

故に (9) は

$$\begin{aligned}
 p+iq &= C_4 + A_1 z + \frac{1}{4} \frac{a}{K} A_2 u^2 \\
 &\quad + \frac{4}{\pi} \frac{a}{2K} [F(u_2) - F(u_1) + F(-K) - F(K+iK')] \dots (10)
 \end{aligned}$$

應力は、断面の中心に於て零でなければならぬから、

$$z = \frac{1}{2} bi \text{ に於て } p = \frac{1}{2} b, \quad q = 0,$$

$$u = \mu i K, \quad u_1 = (\mu i - 1) K, \quad u_2 = (1 + 3\mu i) K.$$

この値に對して (10) の右邊は  $\frac{1}{2} b$  に等しくなければならぬ、これによつて常數  $C_4$  が

決定す。よつて右邊の虚實を分離して前章 (2) の後式へ代入すれば、應力の一般式を得。實際に數値を求むる場合には

$$u_1 = r_1 e^{i\theta_1}, \quad u_2 = r_2 e^{i\theta_2}$$

と置きて計算するを便とす。

また  $\mu$  の大なる値に對しては、(7) を次の如く變形することが出来る。まづ (7) に於て

$$u = \sqrt{e_1 - e_3} u', \quad \frac{u'}{2\omega_1} = v$$

と置けば、

$$u = \frac{2Kz}{a}, \quad \sqrt{e_1 - e_3} = 1, \quad 2\omega_1 = 2K$$

なるを以て

$$v = \frac{z}{a}.$$

しかるに

$$\operatorname{cn} u = \sqrt{\frac{k'}{k}} \frac{\theta_2 v}{\theta_3 v},$$

$$\operatorname{dn} u = \sqrt{\frac{k'}{k}} \frac{\theta_3 v}{\theta_0 v},$$

$$\theta_2 v = 2q^{\frac{1}{4}} \cos \pi v \prod_{n=1}^{\infty} (1 - q^{2n}) \prod_{n=1}^{\infty} (1 + 2q^{2n} \cos 2\pi v + q^{4n}),$$

$$\theta_3 v = \prod_{n=1}^{\infty} (1 - q^{2n}) \prod_{n=1}^{\infty} (1 + 2q^{2n-1} \cos \pi v + q^{4n-2}).$$

故に

$$k \operatorname{cd} u = 2k^{\frac{1}{2}} q^{\frac{1}{4}} \cos \pi v.$$

よつて

$$A = i - \frac{4}{\pi} \log 2k^{1/2} q^{1/4} = 3\mu + i - \frac{8}{\pi} \log 2,$$

$$X = \frac{2iv}{2n-1} = \frac{1}{a} \frac{2iz}{2n-1},$$

$$dX = \frac{2i}{2n-1} dv = \frac{1}{a} \frac{2i}{2n-1} dz$$

と置けば、(7) は

$$\begin{aligned} w &= A - \frac{4}{\pi} \log \prod_{n=1}^{\infty} (1 + X^2) \\ &= A - \frac{4}{\pi} \sum_{n=1}^{\infty} \log (1 + X^2), \end{aligned}$$

従て

$$\begin{aligned} p + iq &= C_4 + \int_0^z w dz \\ &= C_4 + Az + 2ia(2n-1)\pi^{-1} \int_0^z \sum_{n=1}^{\infty} \log(1+X^2) dX \dots\dots (11) \end{aligned}$$

而して

$$\begin{aligned} \int_0^z \sum_{n=1}^{\infty} \log(1+X^2) dX &= \sum_{n=1}^{\infty} \left[ X \log(1+X^2) - 2X \right. \\ &\quad \left. - i \log \frac{1+Xi}{1-Xi} \right] \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \left[ X \log(1+X^2) - 2X + 2 \tan^{-1} X \right] \end{aligned}$$

これ以後の計算は、(10) の場合と同様である。また  $v$  が  $1/2$  をこえない場合には

$$\log \cos x = -\frac{1}{2} x^2 - \frac{1}{12} x^4 - \frac{1}{45} x^6 - \dots\dots$$

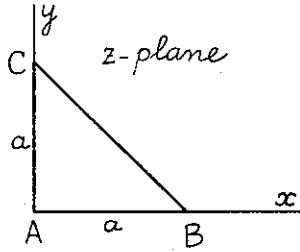
を利用するが便である。

### 第三章 三角楕圓

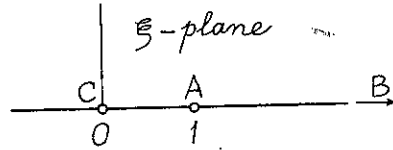
#### 1. 直角二等邊三角形の横断面を有する直楕圓

直角二等邊三角形  $ABC$  を  $z$  平面にとり (第四圖), これを  $\xi$  上半面へ等角寫像するに當り, 點對應を次の如くさだむ (第五圖)。

第四圖



第五圖



| 頂 點      | A  | B | C  |
|----------|----|---|----|
| z 平面上の位置 | 原點 | a | ia |
| ξ 平面上の位置 | 1  | ∞ | 原點 |

然るときは

$$z = C_1 \int_1^\xi \xi^{-3/4} (\xi - 1)^{-1/2} d\xi + C,$$

こゝに於て

$$v^2 = 1 - \xi^{-1/2}$$

と置けば、上式は

$$\frac{z - C}{2\sqrt{2} C_1} = \int_0^v \left\{ (1 - v^2) \left( 1 - \frac{1}{2} v^2 \right) \right\}^{-1/2} dv,$$

故に

$$v = \operatorname{sn} \left\{ \frac{z - C}{2\sqrt{2} C_1}, \frac{1}{\sqrt{2}} \right\},$$

従て

$$\xi^{-1/2} = \operatorname{cn}^2 \left\{ \frac{z - C}{2\sqrt{2} C_1}, \frac{1}{\sqrt{2}} \right\}.$$

然るに A 點に關して

$$\frac{-C}{2\sqrt{2} C_1} = 0,$$

B 點に關して

$$\frac{a - C}{2\sqrt{2} C_1} = K,$$

C 點に關して

$$\frac{ia - C}{2\sqrt{2} C_1} = iK.$$



これより

$$C=0,$$

$$\frac{1}{2\sqrt{2} C_1} = \frac{K}{a},$$

$$K=K'$$

を得、よつて

$$\xi^{-1/2} = \operatorname{cn}^2 \frac{Kz}{a} \dots\dots\dots (1)$$

また

$$k = \frac{1}{\sqrt{2}}, \quad k^2 = \frac{1}{2}$$

なるを以て、

$$k' = \frac{1}{\sqrt{2}} = 0.707107$$

$$K=K'=1.854075$$

次に条件多角形の各邊は、

| 邊  | $-2\theta_r$ の値     | 邊の方程式  |
|----|---------------------|--------|
| AB | 0                   | $t=1$  |
| BC | $-\frac{1}{2} 3\pi$ | $s=-1$ |
| CA | $-\pi$              | $t=-1$ |

これによつて、 $w$  圖形は、1葉の數平面上にあり、  
(第六圖)。これを  $\xi$  上半面へ重ね合はす函数は、

$$w = C_2 \int \frac{d\xi}{\xi^{1/2} (\xi-1)} + C_3$$

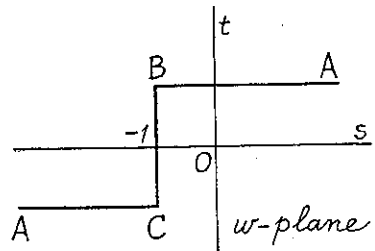
従て

$$w = C_2 \log \frac{\xi^{1/2} - 1}{\xi^{1/2} + 1} + C_3,$$

こゝに  $\xi$  が實軸上を進行するとき、

|                     |                |
|---------------------|----------------|
| $-\infty < \xi < 0$ | $w = -1 + ti,$ |
| $\xi = 0$           | $w = -1 - i,$  |
| $0 < \xi < 1$       | $w = s - i,$   |
| $\xi = 1$           | $w = \infty$   |
| $1 < \xi = \infty$  | $w = s + i,$   |
| $\xi = \infty$      | $w = -1 + i$   |

第六圖



なるを要す, そのためには

$$C_2 = -\frac{2}{\pi},$$

$$C_3 = -1 + i.$$

よつて,  $w$  を  $\xi$  へ寫像する函数は,

$$w = i - 1 - \frac{2}{\pi} \log \frac{1 - \xi^{-1/2}}{1 + \xi^{-1/2}} \dots \dots \dots (2)$$

こゝに於て (1) と (2) より  $\xi$  を消去すれば,

$$\left. \begin{aligned} w &= i - 1 - \frac{4}{\pi} \log (k \operatorname{sd} u), \\ u &= \frac{Kz}{\alpha} \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (3)$$

を得。矩形場の場合の (7) に對應するものである。

次に Weierstrass の函数に於ける基本週期を

$$2\omega_1 = 2K, \quad 2\omega_3 = 2iK'$$

に選べば

$$\frac{\omega_3}{\omega_1} = \frac{iK'}{K} = i,$$

$$\sqrt{e_1 - e_3} = 1,$$

$$q = e^{-\pi} = 0.04321$$

となり, 更に

$$\operatorname{sn} u = \frac{\sigma u}{\sigma_3 u},$$

$$\operatorname{dn} u = \frac{\sigma_2 u}{\sigma_3 u},$$

$$\sigma_2 u = \frac{e^{-\eta_2 u} \sigma(u + \omega_2)}{\sigma \omega_2},$$

$$\omega_2 = -(1+i)K$$

なるを以て

$$\operatorname{sd} u = \frac{e^{\eta_2 u} \sigma \omega_2 \sigma u}{\sigma(u + \omega_2)},$$

よつて (3) は

$$w = A - \frac{4}{\pi} \eta_2 u + \frac{4}{\pi} \log \frac{\sigma(u + \omega_2)}{\sigma u} \dots \dots \dots (4)$$

こゝに

$$A = i - 1 - \frac{4}{\pi} \log(k \sigma \omega_2),$$

$$\eta_1 = \frac{\pi^2}{K} \left\{ \frac{1}{12} - 2 \sum_{n=1}^{\infty} n q^{2n} (1 - q^{2n})^{-1} \right\},$$

$$\eta_2 + (1 + i) \eta_1 = \frac{\pi i}{2K},$$

$$\sigma \omega_2 = \frac{K}{\pi} e^{\frac{5\pi^2}{4}} e^{\eta_2 \omega_2 / 2} q^{-1/4} \prod_{n=1}^{\infty} (1 + q^{2n-1})^2 (1 - q^{2n})^{-2},$$

$$g_2 = \left( \frac{\pi}{K} \right)^4 \left\{ \frac{1}{12} + 20 \sum_{n=1}^{\infty} n^3 q^{2n} (1 - q^{2n})^{-1} \right\},$$

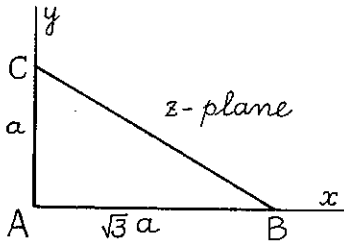
$$g_3 = \left( \frac{\pi}{K} \right)^6 \left\{ \frac{1}{216} - \frac{7}{3} \sum_{n=1}^{\infty} n^5 q^{2n} (1 - q^{2n})^{-1} \right\}.$$

これより先きは、矩形場の場合と同様に計算せらる。

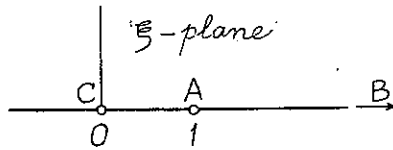
**2. 60 度角を有する直角三角形を横断面とする直場**

直角三角形 ABC に於て、A を直角頂、B 角を 30 度、C 角を 60 度とし、AB 邊 (長さ  $\sqrt{3} a$ ) を  $z$  平面の實軸に、AC 邊 (長さ  $a$ ) をその虚軸に選ぶ (第七圖)。これを  $\xi$  平面の上半部に等角寫像するにあたり、點對應を次のやうにさだめる (第八圖)。

第七圖



第八圖



| 頂 點          | A | B            | C    |
|--------------|---|--------------|------|
| $z$ 平面上の位置   | 0 | $\sqrt{3} a$ | $ia$ |
| $\xi$ 平面上の位置 | 1 | $\infty$     | 0    |

かやうにすると、寫像函数は

$$z = C_1 \int_1^\xi \frac{d\xi}{\xi^{2/3} (\xi-1)^{1/2}} + C.$$

こゝに於て

$$x = \xi^{1/3}$$

と置けば、上式は

$$z - C = 3C_1 \int_1^x \frac{dx}{\sqrt{x^3 - 1}}.$$

さらに

$$y = \frac{x^3 - 1}{(x-1)^2} = \frac{x^2 + x + 1}{x-1},$$

$$y_1 = \sqrt{3} (2 + \sqrt{3}),$$

$$y_2 = -\sqrt{3} (2 - \sqrt{3}).$$

と置けば、

$$\frac{z-C}{3C_1} = \int_\infty^y \frac{dy}{\sqrt{y(y-y_1)(y-y_2)}}.$$

次に

$$\sin \varphi = + \left\{ \frac{y_2 - y_1}{y - y_1} \right\}^{1/2},$$

$$\cos \varphi = - \left\{ \frac{y - y_2}{y - y_1} \right\}^{1/2},$$

$$\lambda = 2 (y_2 - y_1)^{-1/2} = 0.760,$$

$$k^2 = \frac{-y_1}{y_2 - y_1} = \frac{2 - \sqrt{3}}{4} = \sin^2 \frac{1}{12} \pi,$$

$$k' = \sqrt{2 + \sqrt{3}} / 2 = \sin \frac{11}{12} \pi$$

と置けば、

$$\frac{z-C}{3\lambda C_1} = \int_0^\varphi \frac{d\varphi}{\sqrt{1 - k^2 \sin^2 \varphi}},$$

故に

$$\sin \varphi = \operatorname{sn} \frac{z-C}{3\lambda C_1},$$

$$\cos \varphi = \operatorname{cn} \frac{z-C}{3\lambda C_1}.$$

然るに

$$\cos \varphi = - \left\{ \frac{y-y_2}{y-y_1} \right\}^{1/2} = - \frac{x-1-\sqrt{3}}{x-1+\sqrt{3}},$$

故に

$$\operatorname{cn} \frac{z-C}{3\lambda C_1} = \frac{\sqrt{3}+1-\xi^{1/3}}{\sqrt{3}-1+\xi^{1/3}}.$$

次に常数を決定するため、點對應を考へれば、A 點に關して、

$$\frac{-C}{3\lambda C_1} = 0,$$

B 點に關して

$$\frac{a\sqrt{3}-C}{3\lambda C_1} = 2K,$$

よつて

$$C=0,$$

$$\frac{1}{3\lambda C_1} = \frac{2K}{\sqrt{3}a},$$

故に

$$\operatorname{cn} \frac{2Kz}{\sqrt{3}a} = \frac{\sqrt{3}+1-\xi^{1/3}}{\sqrt{3}-1+\xi^{1/3}} \dots \dots \dots (5)$$

尙 C 點を吟味するに、この場合

$$k = \sin 15^\circ, \quad k' = \sin 75^\circ$$

なるを以て、

$$K = 1.598142$$

$$K' = 2.768063$$

$$\frac{2K}{\sqrt{3}} = 1.845376$$

よつて  $z=ia$  なる C 點に於て、函数 (5) の左邊は、

$$\operatorname{cn} \left( \frac{2Ki}{\sqrt{3}}, k \right) = \operatorname{nc} \left( \frac{2K}{\sqrt{3}}, k' \right)$$

にして正でなければならぬ。しかし  $k'$  を母数とする函数にありては、上の記號にて、

$$\frac{K}{K'} = 0.5774 = 1/\sqrt{3}$$

であるから, Jacobi の常数は

$$q = e^{-0.5774} = 0.1630$$

となる。また

$$\operatorname{cn}\left(\frac{2K}{\sqrt{3}}, k'\right) = \sqrt{2-\sqrt{3}} \frac{\theta_2 v}{\theta_0 v},$$

$$v = \frac{2K}{\sqrt{3}} / 2K' = \frac{1}{3}$$

にして,

$$\begin{aligned} \theta_2\left(\frac{1}{3}\right) &= 2q^{1/4} \left( \cos \frac{1}{3} \pi + q^2 \cos \pi + q^9 \cos \frac{5}{3} \pi + \dots \right) \\ &= 0.6016 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \theta_0\left(\frac{1}{3}\right) &= 1 - 2q \cos \frac{2}{3} \pi + 2q^4 \cos \frac{4}{3} \pi - 2q^9 \cos 2\pi + \dots \\ &= 1.1623 \end{aligned}$$

$$\theta_2\left(\frac{1}{3}\right) / \theta_0\left(\frac{1}{3}\right) = 0.5177$$

$$\sqrt{2-\sqrt{3}} = 0.5177$$

故に

$$\operatorname{cn} \frac{2Ki}{\sqrt{3}} = 3.731$$

これに對して, (5) の右邊は,  $\xi$  上の  $C$  點に於て

$$\frac{\sqrt{3}+1-0}{\sqrt{3}-1+0} = 3.732$$

故に (5) は斷面の三角形を, 希望通り,  $\xi$  上半面へ等角寫像す。

(5) はまた次のごとく書かれる。

$$\xi^{1/3} - 1 = \sqrt{3} \frac{1 - \operatorname{cn}(2Kz/a\sqrt{3})}{1 + \operatorname{cn}(2Kz/a\sqrt{3})} \dots \dots \dots (6)$$

次に  $w$  平面上に描くべき條件多角形の邊は,

| 邊  | $-2\theta_i$      | 邊の方程式             |
|----|-------------------|-------------------|
| AB | 0                 | $t-1=0$           |
| BC | $-\frac{5}{3}\pi$ | $\sqrt{3}s-t+2=0$ |
| CA | $-3\pi$           | $t+1=0$           |

これ第九圖の如きブローケン・ラインであつて、 $w$  がこの上を進行するとき、 $\xi$  は一直線（實軸）上を動くべきものとす。而して點對應は

| 頂 點          | A        | B               | C             |
|--------------|----------|-----------------|---------------|
| $w$ 平面上の位置   | $\infty$ | $-1/\sqrt{3}+i$ | $-\sqrt{3}-i$ |
| $\xi$ 平面上の位置 | 1        | $\infty$        | 0             |

であるから、寫像函数は

$$w = C_2 \int \frac{d\xi}{\xi^{2/3}(\xi-1)} + C_3.$$

いま  $x = \xi^{1/3}$  とおけば

$$w - C_3 = 3C_2 \int \frac{dx}{x^3-1}$$

となり、

$$\frac{1}{x^3-1} = \frac{1}{6} \left[ \frac{2}{x-1} - \left( \frac{1}{x+\lambda_1} + \frac{1}{x+\lambda_2} \right) + i\sqrt{3} \left( \frac{1}{x+\lambda_1} - \frac{1}{x+\lambda_2} \right) \right]$$

$$\lambda_1 = \frac{1}{2}(1-i\sqrt{3}), \quad \lambda_2 = \frac{1}{2}(1+i\sqrt{3})$$

なるを以て、

$$w - C_3 = \frac{1}{2} C_2 \left[ \log \frac{(x-1)^2}{x^3+x+1} + i\sqrt{3} \log \frac{2x+1-i\sqrt{3}}{2x+1+i\sqrt{3}} \right] \dots (7)$$

但し  $x = \xi^{1/3}$ . 常数を決定するため、 $B$  點の對應を考へれば、

$$C_3 = -1/\sqrt{3} + i,$$

また  $C$  點の對應を考へれば、

$$C_2 = \frac{4}{\pi} (1+i\sqrt{3})$$

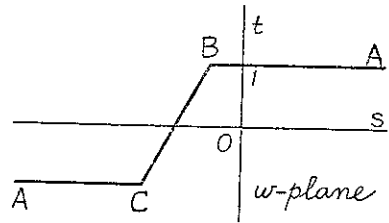
を得。但し對數函数の偏角は最小値をとる。これによつて (7) は完全に定まる。

### 3. 正三角形の横断面を有する直棒

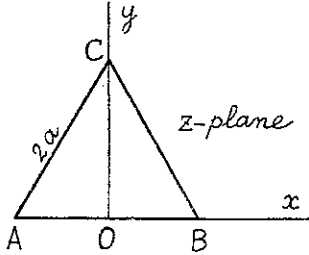
1 邊が  $2a$  なる正三角形  $ABC$  に於て、 $AB$  を  $z$  實軸に、その中點を  $z$  原點に選び、 $\xi$  平面へ次の如く對應せしめる（第十圖）。

| 頂 點          | A    | B   | C            |
|--------------|------|-----|--------------|
| $z$ 平面上の位置   | $-a$ | $a$ | $\sqrt{3}ai$ |
| $\xi$ 平面上の位置 | $-1$ | $1$ | $\infty$     |

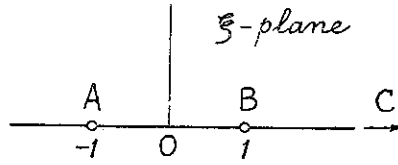
第九圖



第十圖 (a)



第十圖 (b)



この場合の寫像函数は,

$$z = C_1 \int_0^\xi \frac{d\xi}{(\xi^2 - 1)^{2/3}} + C,$$

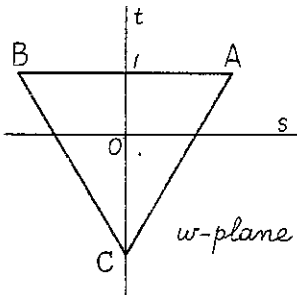
故に

$$\frac{z - C}{C_1} = \int_0^\xi \frac{d\xi}{(\xi^2 - 1)^{2/3}} \dots\dots\dots (8)$$

第十圖の断面に對する條件多角形は、第十一圖であつて、

|    |                   |                          |
|----|-------------------|--------------------------|
| 邊  | $-2\theta$        | 邊の方程式                    |
| AB | 0                 | $t - 1 = 0,$             |
| BC | $-\frac{4}{3}\pi$ | $\sqrt{3}s + t + 2 = 0,$ |
| CA | $-\frac{8}{3}\pi$ | $\sqrt{3}s - t - 2 = 0.$ |

第十一圖



これを  $\xi$  平面へ寫像する函数は,

$$w = C_2 \int_0^\xi \frac{d\xi}{(\xi^2 - 1)^{2/3}} + C_3,$$

故に

$$\frac{w - C_3}{C_2} = \int_0^\xi \frac{d\xi}{(\xi^2 - 1)^{2/3}} \dots\dots\dots (9)$$

しかるに、(8) と (9) の右邊は全く同じものである。よつてこれを消去すれば、

$$w = C'z + C'',$$

$$C' = C_2/C_1, \quad C'' = C_3 - CC_2/C_1$$

を得。一方に於て頂點は、

|            |                |                 |                    |        |
|------------|----------------|-----------------|--------------------|--------|
| 頂 點        | A              | B               | C                  | $z$ 原點 |
| $z$ 平面上の位置 | $-a$           | $-b$            | $\sqrt{3}\alpha i$ | 0      |
| $w$ 平面上の位置 | $\sqrt{3} + i$ | $-\sqrt{3} + i$ | $-2i$              | $i$    |



これによつて

$$C' = -\sqrt{3}/a, \quad C'' = i$$

なるを要す。よつて

$$w = i - \sqrt{3}z/a \dots\dots\dots(10)$$

これを  $z$  について積分すれば、

$$p + iq = C + iz - \frac{1}{2} \frac{1}{a} \sqrt{3} z^2.$$

$z$  三角形の重心  $z = ai/\sqrt{3}$  に於て、應力が零なるべきことの條件より、

$$C = \frac{1}{2} \sqrt{3} a.$$

よつて

$$p = \frac{1}{2} \sqrt{3} a \left( 1 - \frac{x^2 - y^2}{a^2} \right) - y,$$

$$q = x - \sqrt{3} xy/a,$$

従て應力は

$$\left. \begin{aligned} \tau_x &= \frac{1}{a} \sqrt{3} G\gamma xy, \\ \tau_y &= G\gamma \left\{ \frac{1}{2} \sqrt{3} a \left( 1 - \frac{x^2 - y^2}{a^2} \right) - 2y \right\}. \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(11)$$

重心  $z = ai/\sqrt{3}$  に於ては、先きに定めたごとく、

$$\tau_x = 0, \quad \tau_y = 0.$$

邊の中點 (例へば  $z=0$ ) に於ては、

$$\tau_x = 0, \quad \tau_y = \frac{1}{2} \sqrt{3} a G\gamma,$$

頂點 (例へば  $z=a$ ) に於ては、

$$\tau_x = 0, \quad \tau_y = 0.$$

附記。本篇は、さらに計算例を示すこと、Saint Venant 解式と比較すること、實驗と對照すること、その他若干の事項を附加すべき性質のものではある、種々の事情から、いま、その豫定がたいないのは、残念である。

最初、この問題に手をそめたときには、捩力率をうける任意の三角端、四角端、六角端、八角端が、み

な、同一方法によつて、解けやうかと考へてゐた。しかるに、楕圓函數及楕圓積分の本性を明かにするに及んで、本篇に取扱ふものゝほかは、いづれも、該数理の域外にあることが知られた。

さりながら、至嚴の數領域に於て、ブロークン・ラインは、一直線に置きかへられるといふことは、それ自身、一の驚異である。この種の性質は、さらに幾多の彈性問題を、解くべき力をもつかと思はれる。

1929年6月

---